

愛・地球博でも公演していたジャズボーカリストの鈴木重子さんのCDを車の中で聞いていた時、「タイタニックのテーマ」の曲がかかり、突然あの映画のワンシーンにタイムスリップした気分になりました。タイタニックの物語は1500人以上の犠牲者を出した悲惨な事故の回想録であるにもかかわらず、人々の心をいつまでも魅了する輝きを持ったストーリーだと思います。

さて、先日の「第4回 リメンバー3.17安全大会」に参加していただきありがとうございました。現場が長引いて参加できなかった人達もいますので、特別講演についてお話ししたいと思います。今回、「いのちをバトンタッチする会」を主催されていらっしゃる鈴木中人さんにお話をさせていただきました。鈴木さんは10年前に娘さんを小児がんで亡くされ、その時の闘病生活から「命の大切さ」「家族の絆」「日々の生活への感謝の心」などを、気づきとして娘さんから命と引き換えでバトンタッチされ(学ばれ)、それをご自分の使命として、デンソーの次長職を辞職して、全国をまわって講演活動をされていらっしゃる方です。

仕事が無事終わって家に帰る。家族で楽しく食事をして、その後テーブルを囲んでエポック社の人生ゲームをする。そんな当たり前のワンシーンが、実は人生においてもっとも至福の時なのです、と中人さんは我々に熱く語りかけてくれました。娘さんに会いたくてももう会えない。時を戻すこともできない。そんな胸をかきむしるような、苦しい思いの中から見つけた中人さんの答えは「一日一日を大切に精一杯生きよう」であり「難病やハンデを負いながら懸命に生きる人達の手助けをして、娘の分の人生も生きよう」でした。その瞬間から中人さんの悲しい体験が、タイタニックの「碧洋のハート」の宝石のごとく輝きを放ちはじめ、多くの同じ病気で苦しむ家族の心を支えてきました。我々も日々の作業が無事完了する、そんな当たり前とも思える瞬間々に感謝し、そしてみんなでご安全に！！と言い合える元気に感謝し、中人さんの思いをバトンタッチしていきたいと思います。

私が車の中で思い出したワンシーンは、船内のレセプションパーティーの場面でした。貧しい旅行者のディカプリオが、貴族たちのパーティーで乾杯をする時に「よき人生に！」＝「To make each day count！！」と言うのですが、直訳では「各日を数えさせよう」ですが自分には「一瞬一瞬を大切に！」と言っている様に思えました。

私の今月の師は「いのちをバトンタッチする会」代表の鈴木中人さんです。感謝。 【羽原 篤史】

